

目標達成計画

作成日:平成30年4月10日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	(1)	施設にボランティアの来苑はあるが施設からの地域への参加が不足している為、地域イベント(祭り、清掃活動)等に参加し地域との交流を深めていく。	地域の中にある認知症グループホームの理解を深めていただき、地域と共にある施設であることへの理解と交流を持つことで、地域の方々に協力支援を得られるようにする。	地域イベント(祭り、清掃活動等)自治会長及び回覧板、近隣住民の情報を収集し参加させていただく等社会資源を活用することで利用者様の聖愛k津の質の向上に繋げていく。	12ヶ月
2	(3)	2ヶ月ごとに開催している運営推進会議を活用し多種の色々な意見を取り入れ認知症ケアに努める。	施設の向上の為に多くの家族の参加を呼びかけ、多くの意見を得られるような仕組みを作り、地域に根ざした施設作りを行う。	現在、運営推進会議に関して家族の参加が不足している為、1ヶ月前に文章にて開催への参加を呼び掛けていく、又電話による参加の呼びかけを行っていく。	12ヶ月
3	(7)	変則勤務のため申し送りノートにて共有しているが職員の生の声を聞き取れず、職員の思いが反映されていない点がある。	1ヶ月に1回職員のカンファレンスの実施。BS法(集団思考法)を取り入れることで、色々な意見を取り入れ、利用者様にとっての良い形の生活の支援ができる。	全職員が1ヶ月に1回集まる機会を設け多角的な意見の収集により職員の思い及び利用者様のケアに対する共有を図る。	12ヶ月
4	(12)	利用者様の重度化や終末期に向けた職員の支援の共有を図るとともに、チームでの支援の共有を図る。	看取り介護の学習会の実施及び終末期、重度化した利用者様。家族様への心身に寄り添う支援の確立。	終末期における勉強会の開催、終末期に携わる職員のメンタル面への配慮等職員共有の意識を持つ。	12ヶ月
5	(18)	身近な社会資源を活用し外出の機会を設け生活の質の向上に努めるように支援していく。	天気の良い日は、外気浴や散歩で季節感を感じて頂く、外食を通じて一人一人の長年培われてきた食文化を楽しんで頂く、季節ごとに開催されるイベントにお連れし、生活の質の向上に繋げていく。	町内のイベント参加、外食会、四季折々に開催されるイベントへの参加を通して楽しみを持てる聖愛k津の稀有族を図るとともに心身ともに健康維持を図る。	12ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。